

シンポジウム 16：つなげる・つづける食支援

～食支援の地域展開方法模索する～

演題名	地域とともに繋げる食支援～口を支え食を支える～
-----	-------------------------

概要

毎日どこかで高齢者の口腔と関わり、その管理やケア、また食支援を行っている。介護認定を受けていない元気高齢者の口腔内がきれいであるか、しっかり噛めているかというところでもない。しかし、歯科にかかり多くの歯を残す方が増えていることも確かである。介護予防の教室や出前講座でも、歯は揃っているがむせることがある、口が渇くと感じる人は多い。食べることや栄養は日常すぎて、特に困らなければそのまま見過ごされていく。そして、超高齢社会に突入する今、食べる楽しみを支える社会や地域が必要だと考え、地域で実践していることを報告したい。

滋賀県米原市にある地域包括ケアセンターいぶきは公設民営、市がつくり地域医療振興協会が運営している複合施設になる。その中の介護老人保健施設で、入所者の口腔機能管理を行っている。いぶきの入所は最長3ヶ月であるが、ベッド数の半数(30床)をショートステイとしているため、これを利用しながら在宅での生活を継続されている。他にも通所リハビリ・訪問リハビリ・訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所・外来診療・往診と、在宅生活を支える機能が充実しているため、それが可能となっている。そこに歯科衛生士が入職したことで、既に行われていた口腔ケアや食支援に専門的な視野が入り、更に歯科受診に繋がることが増えた。続いて言語聴覚士が入職し、管理栄養士・理学療法士・作業療法士と共に食支援のチームと発展した。現場の介護士・看護師と情報を共有し、より安全に、そして楽しみである食を提供している。3人の医師との信頼関係があるからこそ、実践できていると考える。施設内では少しずつ形になってきた食支援であるが、利用者は他のサービスも利用し1カ所で完結できない。そこで多職種連携教育 IPE (Inter professional Education) を行い、地域の多職種が顔を合わせ情報共有できる関係づくりに努めている。

食支援ができる体制が整わず、相談する場所がないまま誤嚥性肺炎を繰り返すことのないよう『おうみ食べてもらい隊 EST』の活動を、県南部で始めた。また、食べることの意味や楽しみ、栄養の大切さを広く啓発するため『京滋 摂食・嚥下を考える会』も動き、食べることを大切にしている地域づくりを目指している。